

教職ブラッシュアップ編 「新たな教師の学び」

独立行政法人教職員支援機構
理事長 荒瀬 克己



独立行政法人教職員支援機構

新学習指導要領と中央教育審議会答申

新学習指導要領（平成29・30年版）の実施

2020（令和2）年4月 小学校

2021（令和3）年4月 中学校

2022（令和4）年4月 高等学校（学年進行）

中央教育審議会の経緯

2021（令和3）年1月 **答申**「令和の日本型学校教育」
の構築を目指して

2021（令和3）年3月 **諮問**「令和の日本型学校教育」
を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について

2021（令和3）年11月 **審議まとめ**「令和の日本型学校教育」
を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて

2022（令和4）年12月 **答申**「令和の日本型学校教育」
を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての
子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～（答申） 2021（令和3）年1月26日中教審
第1部総論「3」から

○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時
休業の長期化により、多様な子供一人一人が自立した
学習者として学び続けていけるようになっているか、
という点が改めて焦点化されたところであり、これか
らの学校教育においては、子供が ICT も活用しながら
自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよ
う、「個に応じた指導」を充実することが必要である。

全ての子供たちの可能性を引き出す

○子供一人一人の可能性／多様な子供の現状

○自立した学習者／自分で考えて、判断して、
行動できる、しようとする
……豊かに生きる

○「個に応じた指導」／「個別最適な学び」

＋

「協働的な学び」

➡ 主体的・対話的で深い学び

生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける
ようにすることが求められている。（学習指導要領解説）

○子供に学びを委ねていく

個に応じた指導／個別最適な学び

○教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う

……指導の個別化

○教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

……学習の個性化

指導に当たって……

- ICTの活用……使い慣れることで道具に
子供の多様性
個別最適な学び
(指導の個別化・学習の個性化)
協働的な学び
- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」や
「分断」に陥らないよう
- 「協働的な学び」においては、集団の中で
個が埋没してしまうことがないよう
(「同調圧力」「重圧」「閉塞感」)

○「はじめに」

各学校段階における子供の学びの姿や教職員の姿、それを支える環境について、「こうあってほしい」という願いを込め、新学習指導要領に基づいて、**一人一人の子供を主語にする**学校教育の目指すべき姿を具体的に描いている。

○教職員の姿

探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、**子供の主体的な学びを支援する伴走者**としての能力も備えている。

一人一人の子供を主語にする学校

児童生徒が学び、学び合う学校

教職員が学び、学び合う学校

- 多様な教職員が個々の指導力を磨くとともに、組織、チームとしての教育力・課題解決力を高める（外部との連携も重要）
- 子供の主体的な学びの伴走者として
コミュニケーション（耳を傾ける）
ファシリテーション（一人一人を活かす）

総論「4.(1)『新たな教師な学びの姿』の実現」から

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、
「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、
児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求め
られる命題である。つまり、教師の学びの姿も、
子供たちの学びの相似形であるといえる。

教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、
次につなげていく探究的な学びを、研修実施者及
び教師自らがデザインしていくことが必要になる。

総論「4.(1)『新たな教師な学びの姿』の実現」から

○主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても**重要なロールモデル**である。

「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学び（授業観・学習観）の転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要がある。

○教師一人一人の専門性を高めるとともに、学校組織が多様な専門性や背景を持つ人材との関わりを常に持ち続けるとともに、そうした人材を積極的に取り込んでいくことが重要である。

令和4年答申から

総論「4.(1)『新たな教師な学びの姿』の実現」から

○主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルである。

「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学び（授業観・学習観）の転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要がある。

○教師一人一人の専門性を高めるとともに、学校組織が多様な専門性や背景を持つ人材との関わりを常に持ち続けるとともに、そうした人材を積極的に取り込んでいくことが重要である。

令和4年答申から

総論「4.(1)『新たな教師な学びの姿』の実現」から

○主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルである。

「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学び（授業観・学習観）の転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要がある。

○教師一人一人の専門性を高めるとともに、学校組織が多様な専門性や背景を持つ人材との関わりを常に持ち続けるとともに、そうした人材を積極的に取り込んでいくことが重要である。

令和4年答申「おわりに」から

環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、子供の主体的な学びを支援する**伴走者**としての能力も備えている教師が、一人でも多く教壇に立つことを期待する。

そして、ひいては時代や社会の変化に対応しつつ、誰一人取り残されず、誰もが自分らしさを大切にしながら学ぶことができ、一人一人の可能性が最大限に引き出される教育を実現することを期するものである。

令和4年答申「おわりに」から

環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている教師が、一人でも多く教壇に立つことを期待する。

そして、ひいては時代や社会の変化に対応しつつ、誰一人取り残されず、誰もが自分らしさを大切にしながら学ぶことができ、一人一人の可能性が最大限に引き出される教育を実現することを期するものである。

令和4年答申「おわりに」から

環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている教師が、一人でも多く教壇に立つことを期待する。

そして、ひいては時代や社会の変化に対応しつつ、誰一人取り残されず、誰もが自分らしさを大切にしながら学ぶことができ、一人一人の可能性が最大限に引き出される教育を実現することを期するものである。